

# 村の子プロジェクト

～住み続けられる滋賀づくりを～

立命館大学

同志社大学

滋賀大学

滋賀県立大学

北九州市立大学

松村有真

竜王みやび

長村真帆

角井優斗

中田沙紀

# OUTLINE

## 1. GOAL



11.3 2030年までに、包括的かつ持続可能な都市化を促進し、**滋賀全域**の参加型、包括的かつ持続可能な人間居住計画・管理の能力を強化する。

11.a **滋賀県内人口流出地域各地**の開発計画の強化を通じて、経済、社会、環境面における都市部、周辺部及び農村部間の良好なつながりを支援する。



9.a 産業の多様化や商品への付加価値創造などに資する政策環境の確保などを通じて、**人口流出地域内**における技術開発、研究及びイノベーションを支援する。

# OUTLINE

2. 社会課題：地域の人口流出を食い止める
3. 手段：「村の子プロジェクト」
4. 成果：地域の魅力が増して外部からの関心が高まって移住者が増える



# 問題意識

1. 滋賀には優良中小企業がたくさんあるが学生が集まらない。
2. 一部の地域だけに人口増加し、地域間格差が進んでいる。

滋賀は魅力でいっぱいなのに、魅力を十分に発信できていない。魅力に地元の人にも気付いていない。



滋賀の中小企業の良さを若者に知ってほしい。  
地域の人口流出を食い止め活性化を促進したい。



行政・教育機関・企業の連携が必要

## 滋賀の人口流出の現状

長浜市・高島市の一部が「過疎地域」として指定されている。

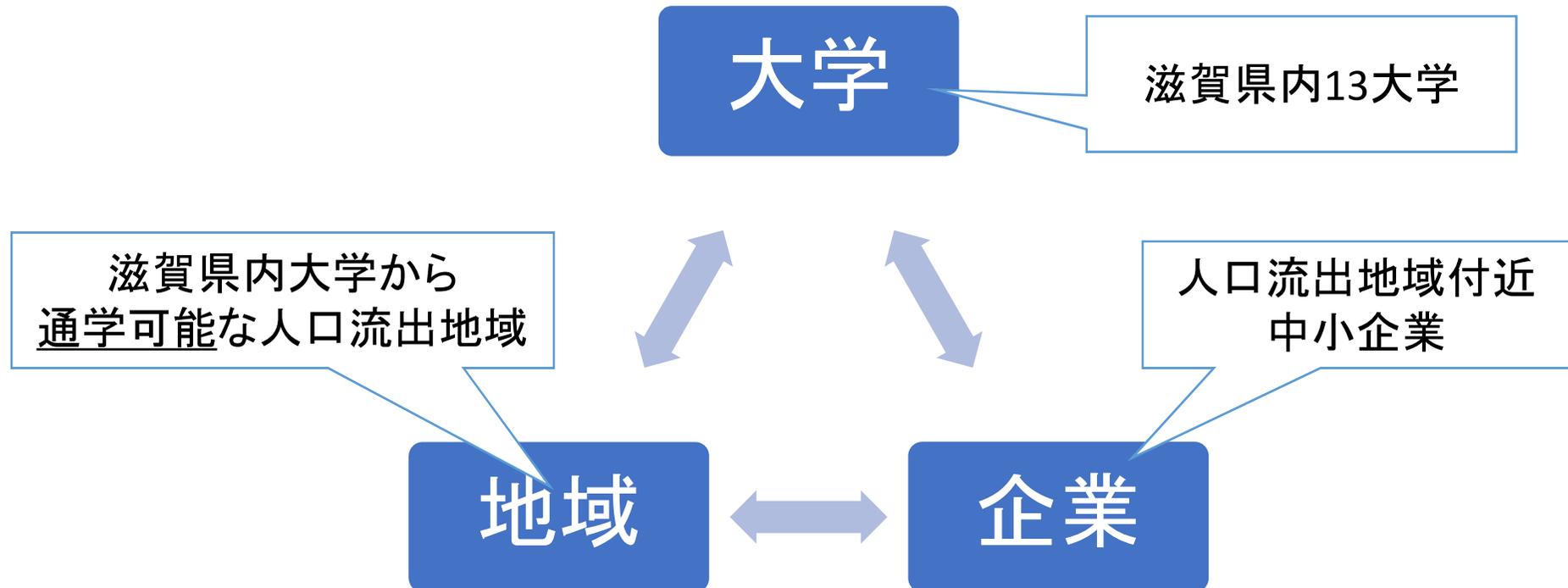
JR沿線から外れた甲賀市や犬上郡など人口流出地域は多い。 4

# 若者を人口流出地域へ

若者を人口流出地域に派遣。現地の魅力を発見し、地域の人と共同で地域の魅力を発信していくようなプロジェクトを提案。

## 村の子プロジェクト

県内13大学の学生を人口流出地域に継続的に1年以上住人として派遣



甲賀市土山町を導入モデルに検討する

# 村の子プロジェクトの特徴

1. 居住期間は最低1年とし、延長可能
2. 学生は空き家に住む⇒家賃は無料
3. 月1で週末ホームステイすることで地域にとけこむ
4. 学生は農業を月に40時間以上お手伝い
5. 地域の中小企業にインターンシップとして実際に働く
6. 学生は地域の人々とともに地域の魅力を見出し、発信

参加の  
インセンティブ



地域の人も地域の魅力に気付いていない場合も多いので  
新しいもの(大学生)が加わることで気づきがあるはず。

# もし松村がこのPJに参加するなら

空き家  
in土山



立命館大  
in南草津

- 毎週土曜日は農業
- 地元企業インターンシップ
- 企業と協同でイベント作り
- イベントで魅力を発信

- 大学で週1回の関連授業
- 講義に地域住民参加
- 定期的な報告会

## メリット

—松村にとって—

- ・通学時間が減る＝定期代節約
- ・単位がもらえる
- ・自分にしかできない自分だけのプロデュースができる
- ・経験的付加価値
- ・自分の限界に挑戦する場

—地域の人々にとって—

- ・中小企業の宣伝
- ・若者の流入による変化
- ・労働力獲得

# 成果

## 村の子プロジェクト



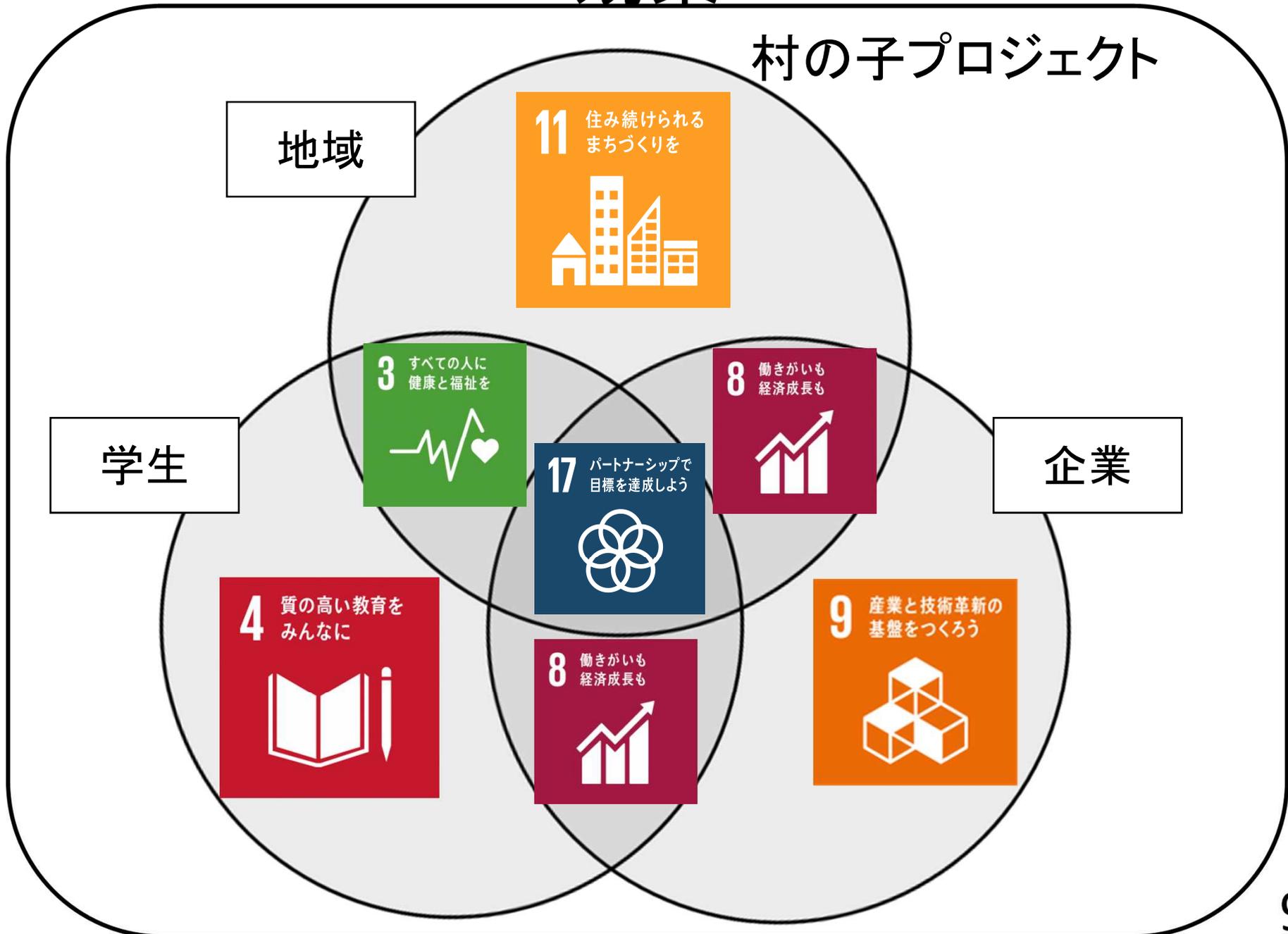
||  
滋賀人口流出地の  
活性化

2030年までに

学生が人口流出地に入り、地域の人と一緒に活動することによって付加価値が生まれ、地域の魅力がさらに増す。その魅力を発信することで、外部からの関心が高まって移住者が増える。

# 効果

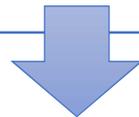
## 村の子プロジェクト



# 課題

## 金銭面

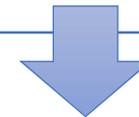
- 企業や大学からの支援・補助の必要性  
⇒どこからの財源で賄うのか議論
- 必要な生活費負担



助成金交渉

## アプローチ方法

- win-winな関係性
- 協力体制づくり
- 学生の力量、やる気



実行委員会設立

**2018年4月開始を目指します！**